

MURC Focus

国民投票から10年が経過した英国が直面する政治不安

～スターマー首相の後継首相の船出も厳しいものに～

調査部 主任研究員 土田 陽介

- 英国がEUからの離脱の是非を問う国民投票を行ったのは2016年6月23日。それから10年が経過した今年の6月22日、相次ぐ地方選での敗北の責任を取る形で、キア・スターマー首相が辞任を表明した。
- 後継の首相は与党の労働党から今夏までに選出され、先に行われたイングランド北西部メイカーフィールド選挙区の下院補欠選挙で国政に復帰したアンディ・バーナム元マンチェスター市長となる見通し。
- 成長と分配のバランスに腐心してきたスターマー首相が辞任を余儀なくされたことで、新首相のかじ取りは難しさを増しているといえよう。

1. スターマー首相が辞任へ

英国が欧州連合(EU)からの離脱の是非を問う国民投票を行ったのは2016年6月23日のことだった。それから10年が経過した今年の6月22日、相次ぐ地方選での敗北の責任を取る形で、キア・スターマー首相が辞任を表明した。後継の首相は与党の労働党から今夏までに選出され、先に行われたイングランド北西部メイカーフィールド選挙区の下院補欠選挙で国政に復帰したアンディ・バーナム元マンチェスター市長となる見通し。

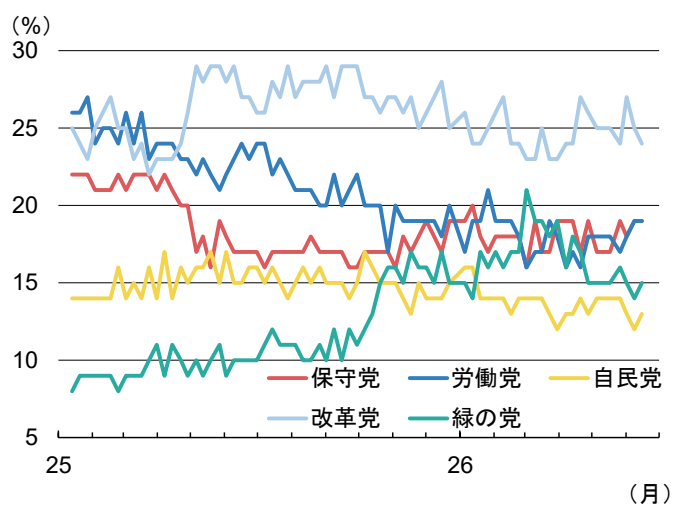
かつての英国では、首相は総選挙ごとに交代するのが通例であった。しかし国民投票以降、英国では頻りに首相が交代する事態となり、国民投票を敢行したキャメロン元首相がその翌月である2016年7月に辞任して以降、当時の政権与党であった中道右派の保守党の首相は8年間に5回も変わっている(図表1)。2024年6月の総選挙で中道左派の労働党が勝利し、政権交代となるも、この流れは変わらなかった。

図表 1. 国民投票以降の英国の首相の変遷

氏名	所属政党	任期
デーヴィッド・キャメロン	保守党	2010年5月 ～2016年7月
テリーザ・メイ	保守党	2016年7月 ～2019年7月
ボリス・ジョンソン	保守党	2019年7月 ～2022年9月
リズ・トラス	保守党	2022年9月 ～10月
リシ・スナク	保守党	2022年10月 ～2024年7月
キア・スターマー	労働党	2024年7月 ～現職

(出所)各種資料

図表 2. 主要政党の支持率



(出所) YouGov

スターマー首相の後継首相の船出も厳しいものになる。世論調査会社ユーガブ (YouGov) による主要政党の支持率調査 (図表 2) を確認すると、労働党は低迷が続いており、相当の政治的あるいは経済的な成果を残さない限り、2029 年までに予定される次回の総選挙での敗北は免れない。気がかりとなるのが、最有力候補とされるバーナム議員が労働党でも左派的な立ち位置にあることである。

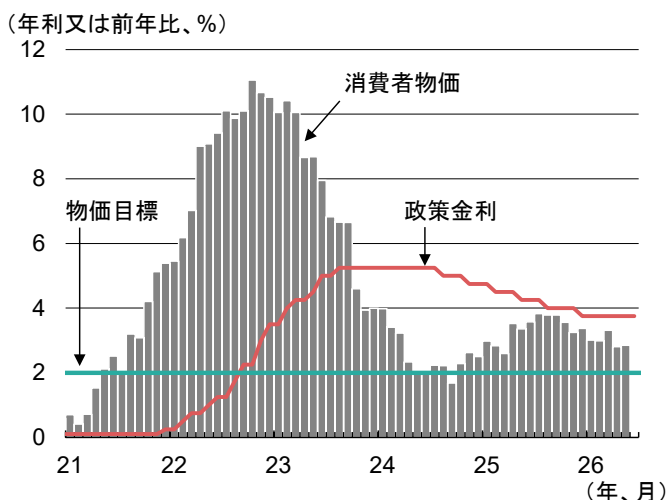
英国経済は典型的なスタグフレーション (景気停滞と物価高進の併存) に陥って久しい。その改善のためには、企業の活力を引き出すための規制緩和など、供給を刺激する成長路線を取る必要がある。しかし労働党は中道左派政党であるため家計寄りの姿勢が強く、需要を刺激する分配路線を重視する。スターマー首相は、左派回帰を強める労働党の中では企業にも配慮していたが、それでも政権の経済政策は分配路線だった。

労働党は、旧来の支持者層が環境左派の緑の党に流れていることもあり、分配路線を強化して党勢回復を目指したいところである。ただし労働党の新政権が今後も“大きな政府”を目指すなら、スタグフレーションはさらに長期化すると危惧される。成長と分配のバランスに腐心してきたスターマー首相が辞任を余儀なくされたことで、新首相のかじ取りは難しさを増しているといえよう。

2. 中長期的な懸念事項としてのイングランド銀行の独立性低下

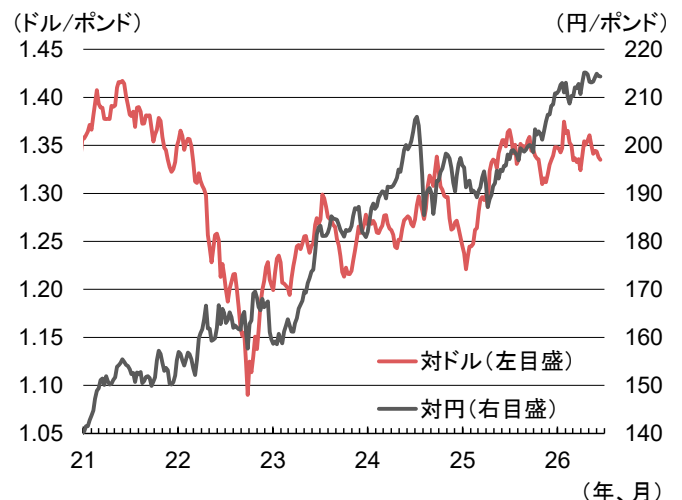
政治が不安定となる中で、懸念されるのが中央銀行であるイングランド銀行 (BOE) の独立性の問題である。6 月の金融政策委員会 (MPC) では利上げを見送ったものの、BOE は物価目標に則した金融政策運営を一貫しており、それが通貨ポンドの信認につながっている (図表 3 と 4)。BOE は政府財務省との間で物価目標の設定について協議するものの、その実現に関する手段の独立性が高く保証されていることで知られる。

図表 3. 英国の金利と物価



(出所) イングランド銀行 (BOE) 及び英国立統計局 (ONS)

図表 4. ポンド相場



(注) 週次。
(出所) BOE

一般的に政治が不安定になると、与野党の双方から中銀に対して緩和圧力が強まる。そもそも BOE の高い独立性は、1997 年の総選挙で圧勝した当時の労働党政権(トニー・ブレア元首相)のもとで発効された 1998 年の中銀法(イングランド銀行法)によって保障されたものである。言い換えれば、議会の決議を経れば、BOE の高い独立性を制限することは可能である。

当時の労働党ブレア政権は“新しい中道”を標榜し、労働党政権では異色となる成長路線を取ったことで知られる。現在の労働党は左派回帰を強めているため、財政拡張を金融緩和で支えさせる観点から、BOE の独立性を制限する方向に傾きかねない危うさを持つ。こうした点で、労働党の次期首相がどのような方針を採るか、注視する必要がある。

また労働党政権のもとで BOE の独立性が守られたとしても、次期総選挙以降の政権が BOE の独立性を尊重し続けるか、定かではない。特に現在、支持率で首位に立つ右派の改革党を率いるナイジェル・ファラージ党首が政権入りした場合、国民の人気を得る観点から財政拡張と金融緩和を重視し、BOE の独立性を制限する向きを強めかねない。

英国政治の不安定化は今後も続く可能性が高い。それがタイムラグを伴い、BOE の独立性を制限する方向に及べば、通貨ポンドの信用の低下につながり、それがスタグフレーションをさらに悪化させると危惧される。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。